

新型コロナウイルス感染症の現在 ～何をもたらしたか？～

コロナ禍は6年目を迎え一段落したようだが、
未だ福祉事業（施設）においては影響を及ぼしているようだ。
＜コロナ禍＞がもたらした様々な影響について、考えていく時期にさしかかっている。
福祉事業、飲食業、市民生活などにおいてコロナ禍は現在、
どのようになっているのだろうか？
今回は法人内の学生時代にコロナ発生を経験した職員に、
もたらした影響について綴ってもらう。

【挨拶】

皆さん初めまして。援護寮はばたき（以下 はばたき ）入職3年目の小島です。
今回初めて、ニュースレターの原稿を任せて頂けることになりました。事前にお伝えしておきたい事が一点ございます…それは「十中八九」拙い文章になるということです。皆様が読みやすいよう一生懸命精進いたしますが、経験不足故、至らぬところがいくつも出てくると思われます。ですが、今このニュースレターを読んで頂いている皆様の温かいお気持ちで、どうぞ若者が必死こいて伝えようとしている姿を、お時間ございましたら、最後までお付き合い頂けるとめっちゃめっちゃ嬉しいです。

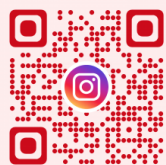
【担当理由】

今回私が原稿を任せて頂いたのは2つの理由があります。一つ目は、当法人内での「大学時代で一番多くの時間を新型コロナウイルス感染症（以下 コロナ）と共に過ごした」ということ。そして二つ目は、「コロナが明けたタイミングで奇しくも社会人生活をスタートさせた」ということ。この2点を踏まえ、私が大学生活から現在の社会人生活に至るまで、コロナからどのような影響を受けたのかと、そのコロナが私にもたらしてくれたものを私の主観ではありますが、この場を借りてお話をさせて頂けることになりました。

【初めに】

私とコロナとの出会いは大学2年生の春でした。私は大学時代の多くをコロナと共に過ごしました。その後2023年4月にはばたき入職、その翌月5月にコロナの第5類感染症移行と共に、世の中に形式的にコロナ明けが宣言されました。そのようなさなか、私は社会人生活をスタートさせました。世の中の多くの人々が生活をコロナ以前の生活に戻そうとしている中、いまだに至る所にコロナの影響が残っていると思います。若者の飲み会離れや機会の減少、会議や授業オンライン化、人付き合いの仕方の変化など、挙げればきりがないくつ出てくると思います。そんな私たちの生活に様々な変化をもたらしたコロナが、私の学生生活に何をもたらしたのか。そのことについて、僭越ながら私の実体験を踏まえて、いくつかお話しさせて頂ければと思います。

GH



はばたき



麦の家



麦の家
フリモ



麦の家
インスタグラム



MUGINOIE_OTA

【大学生活】

一番大きく変わったなと感じた大学生活からお話をさせて頂きたいと思います。大学生でない方も当時のニュースなどで見聞きしたことがあるかもしれない「オンライン授業の開始」についてです。一年生の通学時には手の触れられる距離で会話を交わしていた友人が、オンライン授業が始まり、どこか海を挟んだ異国の友人のように感じられました。

もちろんキャンパスへの「登校」は無くなり、家で授業の時間になったらパソコンを開き、メールで送られてきたURLを開きZOOMに入るのが「登校」という形になりました。授業によりけりですが、ほとんどの学生は画面には顔は映しません。カメラをOFFにしているか、ONにしているも暗かったり体の一部しか映っていなかったりなど、講師の1人演説を見ている感覚でした。グループワークがある授業でしたら話せる機会はありますが、グループワークがない授業が一日続くと、誰とも全く会話しないう1日もありました。

友人との会話も淡白な物になっていたと思います。なんせ「家を出るな」というご時世でしたので、話しのネタはゲームの進捗状況か、大学の課題の進捗状況、今日のお昼ご飯くらいしかありませんでした。（私のおうち時間の過ごし方にあまりパターンがなかったからかもしれませんが）一日家にいると、友人とはなかなか対面で話すことはできませんでしたが、飼っていた猫との時間が多く取れました。この猫との時間は私の心の安定を大きく支えてくれました。猫が居なければこの辛さに耐えきれなかったといっても過言ではない気がします。

授業が終わった後も変化はありました。帰り道のカラオケやファミレスによること。授業のことやレポートのこと、恋愛事情やバイトのこと等、様々なことを話しながら電車やバスを待つ時間。友人の家に泊まりに行き語り合って飲み明かしたり等…そんな尊い時間も機会もすべてに制限が大きくなりました。オンライン授業が終わったら、パソコンを閉じてスマホで動画を見るか寝るか、家のことをするかバイトに行くかがほとんどとなりました。想像していた大学生活とは、かけ離れたものでした。

いっぱいワクワク感を持って、「どんなキャンパスライフが待っているだろう」と入った大学も、2年目にはそのワクワクは「いつこのコロナは終わるのだろう」「大学生活このままなのかな」などといった不安感に変わっていききました。

家族は、両親は変わらず仕事へ行き、妹は変わらず学校へ行きました。9時過ぎに家族が自分以外全員出払い、一人家に取り残されたときには「何のために大学に行ったのだろう」と何度も思いました。そして何度も「私のキャンパスライフを返して」と嘆きたくなりました。ですが、嘆いても状況は変わることはありません。ただ貴重な大学生で居られる時間がただ過ぎ去っていききました。

しかし、コロナはマイナスな事だけではなくプラスな「もたらしてくれたもの」もありました。まずは朝の時間です。私は通学に2時間半ほどかかっていた。朝は1限目（9時～）の場合なら6時30分には家を出なくてはなりません。しかしオンライン授業なら、1限目からでも8時に起きていれば完璧な準備ができます。ゆっくり朝食を食べて、着替えて、飼っているネコと戯れて、それでも時間があるときは優雅にコーヒーを淹れていたりもしていました。8時に起きられなかったとしても、最低8:50に起きれば何とかかなりです。画面をOFFにして、ノートパソコンを持ちリビングへ向かい、朝食を食べながら授業を受けていることもありました。（先生…ごめんなさい。）登校がなくなり、バイト以外ではめったに外に出ることのない生活を送っていた為、時々（というか結構？）昼夜逆転も時々起こっていました。そうなってくると、朝の時間が十分に確保されているということは私にとって、とてもありがたいことでした。

他にも、毎日の服選びの時間が少なくなりました。「首より上が、何とか人様に見える姿になっていればいい」と思っていたので、正直服はジャージ一択だったと思います。服は好きだったのでよく買っていましたが、あんなご時世だったのでせいぜい散歩できるか、家の中でファッションショーをするくらいでした（笑）

レポートや課題をやる時間が増えたのも、良かった事の一つに入るのかもしれませんが。直接登校していた時は、登校下校時間とバイトに追われ、課題に向かう時間の確保が難しかったです。しかし登下校時間がパソコンを開いて、URLをクリックすることだけになったことで、最大で5時間もの時間を新たに確保することができました。私は優秀な学生ではなかったので、レポートや課題については友人に「あの課題、終わった？」と確認され、始めてその存在に気付くなんてことも多々ありました。コロナ禍で会えなくても心配してくれた友人には感謝してもしきれません。経済面で言うと定期代がかからなくなったのは大きかったと思います。



【アルバイト】

アルバイトに関してはあまりコロナで悪い影響を受けたというイメージはありませんでした。私はスーパーでレジのアルバイトをしていました。私は家から大学が遠かったこともあり、登校がなくなった分は沢山バイトに入ることができました。コロナ前と比べて、約三倍近く働くことができた為、そのおかげで好きなものを沢山買えたという点ではよかったです。お客さんもみなマスクをし、少し辛かった点があるとすれば、真夏のバイトです。マスクをしながら昼間に外で作業するのは、少し意識が朦朧とした記憶があります。

【プライベート】

プライベートでは一番つらいことが起こりました。私の趣味はプロ野球観戦と鎌倉への小旅行でした。コロナでどちらも行けなくなりました。プロ野球は無観客試合が始まり、現地観戦することは叶いません。もちろんテレビではやっていましたが、私は現地の外野席で大声をだして応援するのが大好きで、ストレス発散にもなっていました。鎌倉は私の大好きな街です。その街でカフェに行ったり、街を散歩したり、待ちゆく人に美味しいお店を聞いたりして、のんびり1日過ごすのが至福のひと時でした。それも外出制限により、気軽には行けなくなりました。コロナが私のプライベートにもたらしてくれたものは今思い返してもマイナスな面だけだったと思います。

【まとめ】

ここまで大学生活・バイト・プライベートと3つのジャンルでお話させて頂きました。全体的に見ると「もたらしてくれたもの」は【+：プラス】なものより、【-：マイナス】なものが多かった気がします。ですが、コロナがあったことでちょっとした耐性がついたとも思います。それは「コロナの時に比べたら、まだましな方でしょ」と考えられるようになったことです。もちろんすべてに使えるわけではありません。ですが、社会人生活を送る中で辛いことがあった時に、それを思うことで少し心が軽くなるような…気持ちの切り替えがいつもより少し上手いくような…そんな気がしています。まだまだコロナに罹患される方はいらっしゃると思います。幸い私の元にはまだ訪れていないようなので、このまま健康に過ごせたらと思います。ここまで読んでくださった皆様の健康が続くことと、コロナ禍のような時期がもう来ないことを願いながら結びの言葉とさせて頂きたいと思います。

(記：小島)

耕人舎・利用者さんへのインタビュー

Kさん

- ・マスクがなくて大変だった。
- ・野球観戦も出来なかった。
- ・今はだいぶ戻った。
- ・普段の買い物等でもマスクはしている。

Tさん

- ・ダンスをせっかく覚えたのに出来なくなった。
- ・交流の場に行かなくなったことで作業に来た。
- ・良かった点は一つもない。
- ・自転車乗る時はマスク外しているけれど店内ではマスクしている。

Tさん

- ・マスク暑い。
- ・特に困ることはなかった。
- ・マスクは外出時でも時々している。

Tさん

- ・変化はマスクをつけるようになったこと。
- ・暑いし、高い。ドラッグストアで購入している。
- ・でも買い物に行く時もつけて出かけている。



<子供のケンカ>・今昔物語

<子供のケンカに大人は口を出すな>これが私（たち）の子供時代（昔だが）掟(おきて)だった。とはいえ、そう大昔の話でもない。記憶は定かでないが...十数年前までは、この伝統的<掟>が通用していたように思う。

ただ、現在ではどうも違うようだ。ある出来事について聞いた話によれば...小学三年生のクラスでケンカがあり、ある生徒がケンカ相手を殴った、殴った生徒の親に担任から経過が報告され「どうかよろしく」と連絡があったそうだ、連絡を受けた親は即座に相手側の親に連絡し、謝ったということらしい。

この話を聞いて<随分、時代は変わったナ、それにしても...。なんで親が謝るの？それって何か変じゃーない>と思ってしまうが...。でも今では、それが<当たり前の常識>だという。

<子供のケンカに親は口を出すな>という風習は、今では通用しなくなっているのか？そして、次のような光景が目につく。「どうして殴ったりしたの！ダメだよ、明日、謝りなさい、ケンカなんかしないで仲良くしなさいネ」親は子にきつく言い聞かせる光景が。

私（たち）の子供時代であれば、ケンカは日常茶飯事の出来事であり、ケンカしながら仲良くなっていったものだ。今、親は子に対して「仲良くしなさい」としか言わなくなっているのではなからうか？子供であろうが大人であろうが、人はいろんな体験を共有しながら友達になっていくのだ。

そして<仲良くする>ことが良いこと、<ケンカする>のは悪いことという固定概念だけが刷り込まれていく。子供（たち）は、ケンカしながら育っていくものだ！子供なりの<ケンカのルール>があり、それを通じて<ケンカのやり方>を覚えていく。

ケンカを<悪い>こととしてしか理解しない子供（たち）が、やがて思春期を経て大人になったとき、どうなるのか？<ケンカのやり方>を知らない大人になり、今は余り使われなくなったが...<キレる>という現象が起きてしまう。

親がわが子を叱ったり、ときに殴ったりすることもあったが...。<殴り方>はわきまえていた。今、親がわが子を殴るとき、<殴り方>さえ知らないようになった（虐待といわれる行為も然り）。子供（たち）にとっても、ケンカが始まると「ヤレ、ヤレ」とはやし立てたが...。どちらかが「まいった」と認めたとき、「どちらかが出血したとき」皆で止めに入った。それが<暗黙のルール>となっていた。

ケンカは子供（たち）にとって<遊び>の一部くらいに考えた方がおおらかに育つのではないだろうか？それとも...こんな思いは、<古い発想>と一掃されてしまうのだろうか？

付記：もう一つだけ追加しておきたい。法人内でも、しばしば議論になることがある。そんなとき、若い世代は、「激しい議論は苦手だからこれくらいにしませんか」と言う場面がよくある。私は<議論>だからある意味ケンカだヨ<徹底的にやろうヨ>と感じるのだが...。<論争>という表現がある。持論を争うから、これもケンカ（戦い）なのだ。

こういう争いごとには馴染めなければ、話し合いは単なる上っ面のものでしかなくなる。これでいいのだろうか？世の中全体が協調を重んじるあまり、対立を避ける風潮になってきていることも多分に影響しているのかもしれない。

しかし、<対立があるから協調がある>のだ。

（記：中田）

編集後記

毎日の感染者数の報道、定期的なワクチン接種、マスクの品薄…。あの頃に比べたら、今はコロナも落ち着いてきたと感じるが、福祉業界など一部の業界では未だ完全に終息したとは言い難い。全ての人にとっての、コロナ禍の本当の終わりが早く訪れますように…。 ニュースレター編集員

法人本部

群馬県太田市鶴生田町733-123

TEL：0276（20）2509

FAX：0276（20）2510

HP：<http://arcadia-gr.com>